

製品名: IFI-16 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12372**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	88kDa

抗原情報

遺伝子名	IFI16
別名	IFI16; IFNGIP1; Gamma-interferon-inducible protein 16; Ili-16; Interferon-inducible myeloid differentiation transcriptional activator
遺伝子 ID	3428.0
SwissProt ID	Q16666
免疫原	抗血清はヒト IFI16 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 731-780

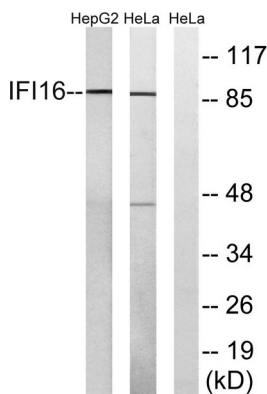
背景

この遺伝子は、HIN-200 (200 アミノ酸反復配列を持つ造血インターフェロン誘導性核抗原) ファミリーのサイトカインをコードし

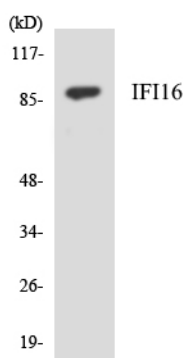
ています。コードされているタンパク質は、DNA 結合、転写調節、およびタンパク質間相互作用に関与するドメインを含んでいます。このタンパク質は核質および核小体に局在し、p53 および網膜芽細胞腫-1 と相互作用します。p53 の機能を調節し、Ras/Raf シグナル伝達経路において細胞増殖を阻害します。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2011 年 4 月]、機能：転写抑制因子として機能する可能性があります。未知の標的遺伝子の活性化を介して造血分化の調節に関与している可能性があります。p53/TP53 や網膜芽細胞腫タンパク質などの細胞周期調節因子の機能を調節することで、細胞増殖を制御します。前立腺上皮細胞の老化に関与している可能性がある。誘導： γ インターフェロンによって強く誘導され、 α インターフェロンによっても弱い誘導を受ける。HL-60 細胞では、 γ インターフェロンによる誘導は 12 時間以内に最大となるのに対し、 α インターフェロンでは 36 時間後でも 10 倍の誘導しか観察されなかった。ジメチルスルホキシド、レチノイン酸、および 1,25-ジヒドロキシビタミン D3 によって *in vitro* で誘導されます。PTM:アイソフォーム 3 は、軽度の複合炭水化物付加を示すようです。PTM:Ser および Thr がリン酸化されています。配列注意:イントロン保持。類似性:HIN-200 ファミリーに属します。類似性:1つの DAPIN ドメインを含みます。類似性:2つの HIN-200 ドメインを含みます。サブユニット:アイソフォーム 1、アイソフォーム 2、およびアイソフォーム 3 は、ホモダイマーおよびヘテロダイマーを形成します。二本鎖 DNA、および p53 や網膜芽細胞腫タンパク質などの細胞周期調節因子に結合します。組織特異性:末梢血白血球、線維芽細胞、およびリンパ球系細胞で発現します。骨髓系前駆細胞 (CD34+) および単球の発達過程全体に存在するが、赤血球系および多形核前駆細胞ではその発現が低下している。前立腺、卵巣、乳房にタンパク質レベルで存在する。

研究分野

画像データ



IFI16 抗体を用いた HeLa 細胞および HepG2 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



IFI16 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。

